新事業創出大賞特別賞を受賞

小松電機産業「やくも水神」

小松電機産業は、日本ニュービジネス協議会連合会（JNB）が主催する第17回ニッポン新事業創出大賞においてアントレプレナー部門の特別賞を受賞した。同社のクラウド総合水管理システム「やくも水神」の新型コントローラーが業務の効率化に寄与する新たな水インフラのIoT事業として評価された。さきごろ宇都宮市内で開かれた「JNB新事業創出全国フォーラムinとちぎ」の中で表彰式が行われ、小松昭夫・会長兼社長が表彰を受けた。

小松会長とやくも水神の制御盤

小松会長は受賞にあたり、「やくも水神はIoTを通じて上下水道事業体の持続に貢献するソリューションとして20年の実績を重ねてきた。施設一斉更新の時代を迎えるなか、当社は事業体のニーズに応えるべく開発を進めてきた。輸入コストの高騰などにより、モノ不足が喫緊の課題となっている。衣食住の多くを輸入に頼る日本が、世界にとって必要不可欠とされる存在となる一助になれば」と語った。

やくも水神は、IoTを活用して上下水道をはじめとする施設の情報を可視化・共有し、効率的に制御管理を行う総合水管理システム。上下水道施設のほか河川や水門、アンダーパスといった多岐にわたる施設をクラウド上で一元管理する「広域クロスオーバー管理」が可能なネットワークシステムを備えている。

2020年に販売を開始した新型コントローラーは、小型のため既存制御盤の製造元を問わず短時間で設置でき、クラウドを通じて出先や事務所の端末からも運転・修理履歴や図面・台帳のデータ共有、遠隔監視・操作などが可能となる。さらに、遠隔で内部ソフトを書き換えることで多様な用途に対応。増設バッテリーを用いることで停電時にも最大7日間稼働できる。気象庁の高解像度降水ナウキャストと連携した排水ポンプ制御による災害被害の最小化にも寄与する。

クラウド上のデータは東日本と西日本にそれぞれ設置されたデータセンターで共有され、相互に連携することで広域災害時においても信頼性の確保が可能。水質管理、水位監視、河川ゲートや消融雪施設といった多様な用途に対応する。

ニッポン新事業創出大賞は、新規事業や活動を対象に革新的な商品やサービス、顕著な実績、成長発展する海外進出企業などを顕彰し、経済社会や地域の活性化に資することを目的としたもの。

季刊

水団連

一般社団法人 日本水道工業団体連合会

新年号
2023

No. 154

シリーズ

キラリと光る！ 躍動する水団連会員

毎号、各地で活躍される水団連会員２社にスポットライトをあて、歴史や沿革、企業理念、主要な製品・技術などを紹介します。

小松電機産業株式会社

＝島根県松江市＝

○ベンチャービジネスの旗手

小松電機産業は日本のベンチャービジネスの旗手と称される創業（会長兼）社長、小松昭夫氏によって、1973年に島根県八雲村でポンプ・工場電気設備の修理業として設立した。板金・塗装設備を導入、配電盤メーカーを経て、その後、経験・設備を活かし、２大ヒット商品となるシートシャッター「Happy gate 門番」、水の総合制御管理システム「やくも水神」を開発した。また、「平和の事業化」を目的に、1994年「人間自然科学研究所」を開設、「健康・環境・平和はひとつ」を提唱し、ホームページなどで発信している。

同社の小松会長兼社長（以下「小松社長」）のもとへ、当連合会の宮崎専務理事が訪問し、これまでの道のりや経営哲学などを伺った。

小松社長

○実家の納屋からのスタート

「1971年、勤務先の倒産を契機に退職し、大阪で2年間修業。その後、八雲村にある実家にもどり、その納屋を作業場に改装し、弟と二人でスタートしました」小松社長の道のりは苦難の連続だったとのことで、当初は工具箱、中古車、現金10万円のみでポンプの修理業から始まった。同社の柱の一つである「門番」は、前勤務先の後輩からの依頼が開発のきっかけ。これが新たなマーケット創造に繋がった。

○手持ちのスマホで遠隔操作

「やくも水神」はクラウド技術を進化させ、広域に分散している水の関連施設を制御管理するシステム。1977年、警備保障会社用に開発された装置を応用し、簡易水道監視装置を開発した。その後、公衆回線を用いた監視システムを開発、滋賀県琵琶町水処理施設に納入。さらに「科学技術庁長官注目発明選定賞」を受賞。DoPa網による無線化、2000年政府の「eジャパン構想」発表、スマートフォン・タブレット端末の急速な普及などが重なり、水のクラウド制御管理の先駆けとなった。

「やくも水神」は、施設状況をいつどこでも把握管理できることから、高価な専用線管理システムが不要で、管理者の負担を劇的に軽減。また経費大幅削減、記録データを活かした最適水質管理、サンプリングや帳票の自動作成など、常に進化し続けている。現在、約500自治体16,000施設で稼働しているとい

う。さらに雪国の道路の消雪システム、日本最大級の農水省・福井県九頭竜川農業用水プロジェクトにも採用。導入自治体が「水道イノベーション賞」「通信局長表彰」を受賞するなど、大きな成果が報告されている。

○世界平和事業家20人に選定

2013年、カーネギーの寄付によって創設された「平和宮」（オランダ・ハーグ市）の100周年記念事業の「世界の平和フィランソロピスト（平和事業家）20人」展に、カーネギーやノーベル、ビル・ゲイツと共に小松社長も選ばれている。アジアからは3名選出されているが、生存者は小松社長のみとのこと。

中小企業研究センター賞、日本で2社目のニュービジネス大賞など数々の受賞に続き、昨年12月にはニッポン新事業創出大賞特別賞を受賞した。

社是『事業を通じて世界に歓びの輪を広げよう』、経営理念『おもしろ　おかしく　たのしく　ゆかいに』、行動指針『三方良し 先義後利』などを提唱。

最後に目指す経営について伺うと、「資本主義（私益の追求）ではなく智本主義（私益と公益の世界的一致）に繋がる順序経緯を重視する『和の経営』の道を目指したい」と締めくくっていただいた。

会社の前にて